

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	皐風会
公演団体名	皐風会

内容	
<p>■【事前ワークショップ】 テーマ「能を体験・共演しよう！」</p> <p>※参考映像などを観ながらオリジナルまんが付テキストに沿って解りやすく。</p> <p>①ご挨拶 《挨拶の大切さについて理解を促す》</p> <p>②「能」とは？《能の基礎的なお話》※解りやすいテキストや映像を用いて解説。 ※簡単な歴史、能楽師の構成と役割、能と狂言の違いについて</p> <p>③能の楽器(四拍子:笛・太鼓・大鼓・小鼓について)※演奏しているようすを映像で紹介。</p> <p>④能の謡(うたい)を体験(全員)。 ※謡:鑑賞演目「羽衣」より。まっすぐに大きな声を出す「謡」の発声の方法を学ぶ。</p> <p>⑤能を演じてみよう《鑑賞演目「羽衣」について理解を深める》 ※鑑賞演目「羽衣」より、天人(主役・シテ)の立居・動作から能独特の「美しい」動作をテーマに体験。実技指導を行い、能楽師と共演。 ・天人の「羽衣(装束)」を着て「美しく」立ち、「美しく」動いてみよう。(代表生徒) ・天人のように「美しく」泣く動作をしてみよう。(生徒全員) ・天人のように「美しく」宝を降らす動作をしてみよう。(生徒全員) ・天人が降らした宝を想像してみよう。「宝」とは何かな。</p> <p>⑥能面を付けてみよう ※能の特徴の一つである能面を付けた時の視野を体験(全員)。また実際に能面をかけて摺り足を体験してもらおう(代表生徒)。 ※その角度によって異なった表情を見せる能面の不思議な魅力を紹介。</p> <p>⑦能の楽器(笛・太鼓・小鼓・大鼓)を演奏してみよう(代表生徒)。</p> <p>⑧質疑応答</p> <p>⑨ご挨拶</p>	
公演時間《所要90分～100分・休み時間を含む》	

タイムスケジュール(標準)
前日仕込みはなし 会場設営は特になし ※長テーブル2本・マイク1本・映像を上映できる機器をご準備下さい 《1時間前》 会場入り(楽器・能面・装束準備・打合せ) 《15分前》 開場・生徒入場 開演(解説40分・休憩10分・映像10分・ワークショップ35分・質疑応答5分) ※計100分(各コーナー調整可能) 生徒退場 《終演後》 ※片付30分程度 ※本公演の舞台設営についての打合せ、控室確認等の具体的な打合せ30分程度 【合計所要時間:約4時間】

派遣者数

■講師 1名・補助 1名 計 2名

学校における事前指導

- ・事前指導等、実演者側からお願いすることはありません。
- ・但し、「能楽」について国語の授業では 能、狂言のストーリーについて、音楽の授業では囃子について、社会では日本各地に伝わる「羽衣伝説」を調べたり、図工の授業では紙の能面を作ってみる（→ペーパークラフト能面の型紙等を送るなどの対応も行います。）等、どのような形でも触れて頂くことは、子供たちにとって興味を持つこと、理解を深めるのに非常に有効であると考えますので、それに伴う事の相談や要望についても出来る限り対応させていただきます。
- ・図書室に「能」「狂言」の本があれば、ワークショップや本公演が近づいたら、生徒さんが手に取りやすいようにコーナーづくりや解りやすく配置して頂けると有効かと思えます。
- ・希望校には当会が要点をまとめて作成した「先生方のためのテキスト及び希望があればそのデータ」を事前にお送りします。また、ワークショップで使用する当会オリジナルのテキストは学校側の要請に応じて、事前に児童・学生に配布することも可能です。

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	阜風会
公演団体名	阜風会

演目
<p>【第1部】本日のみどころ解説(当日プログラムに沿って解りやすく)</p> <p>①ご挨拶</p> <p>②能楽鑑賞のマナーについてのお話</p> <p>③本日の演目についてのお話</p> <p>※本日の演目、狂言「柿山伏」と能「羽衣」のあらすじとみどころ</p> <p>④ご挨拶 ※質疑応答は「第4部」で行うものとする。</p> <p>【第2部】狂言・能の上演</p> <p>①狂言「柿山伏(かきやまぶし)」</p> <p>②能「羽衣(はごろも)」</p> <p>【第3部】狂言を体験しよう!</p> <p>①ご挨拶</p> <p>②「狂言」とは?《狂言の基礎的なお話》</p> <p>③狂言独自の発声を体験。狂言独自の発声を体験。「動物の鳴真似」(演目「柿山伏」より)や「泣き」「笑い」「擬音」など(全員)。</p> <p>④狂言の構え(姿勢)と運び(摺り足)としぐさを体験(代表生徒)。</p> <p>⑤ご挨拶</p> <p>【第4部】アフタートーク及び質問コーナー</p> <p style="text-align: right;">公演時間《所要100分・休み時間を含む》</p>

派遣者数
出演者 18名・スタッフ3名 計21名 (運搬車のドライバーも含むと22名)

タイムスケジュール(標準)
<p>前日仕込みはなし</p> <p>《2時間前》出演者・運搬車会場入り</p> <p style="padding-left: 2em;">舞台設営《所要40分から1時間程度》</p> <p style="padding-left: 2em;">昼食・舞台準備・装束着替え《所要1時間・楽屋にて》</p> <p>《15分前》開場・生徒入場</p> <p style="padding-left: 2em;">開演</p> <p style="padding-left: 2em;">(解説15分・狂言15分・休憩10分・能40分・狂言ワークショップ15分・質疑応答5分)</p> <p style="padding-left: 2em;">※計100分</p> <p style="padding-left: 2em;">生徒退場</p> <p>《終演後》ばらし・片付《所要40分から1時間程度》</p> <p>【合計所要時間:約5時間】</p>

実施校への協力依頼人員

体育館・校内のつくりによっては搬入・運搬時に2～3名。必要となる場合は事前に相談させていただきます。おおむね、必要ありません。

保護者が来場及び参加される学校では、冊子の配布等、受付業務をお願いする方、2～3名程度が必要になる場合もあります。

演目解説

■狂言「柿山伏(かきやまぶし)」

《あらすじ》

山伏が謡いながら登場。旅の途中、あまりに喉が渴いたので、畑主(百姓)がいないのをいいことに柿の木に登って、実を食べ始めてしまう。そこへ百姓が見回りに現れる。大事な柿を食べ散らかしている木の上の山伏を見つけ、腹を立て、からかってやろうと考える。「そこにいるのは犬だ」と百姓がいうと山伏はあわてて犬の鳴き真似をする。続いて「猿だ」と言われると山伏は「キヤーキヤー」と鳴く。ついには「鳶(とび)かもしれないから空を飛ぶだろう」と言って山伏を困らせる。山伏は飛ぼうとしますが、飛べずに、木から落ちてしまう。怪我をした山伏は百姓に「家に連れてかえって看病(かんびょう)しろ」と怒りますが、百姓は知らぬふりをして帰ろうとすると山伏は祈り、法力(ほうりき)で百姓を呼び寄せ、自分を背負ってもらうことに成功するものの、百姓は「やられると思ったか」と山伏を投げ飛ばし帰ってしまう。

《みどころ》

見つけたくないところを見つけてしまうと咄嗟に出てしまう行動のおかしさ。神仏に通じ、修行を重ねている山伏と言えども「あまりに喉が渴いて」「つい」という事はある。また「悪い事は悪い」と結論付ける終曲場面。「滑稽性」と「風刺性」など狂言の特徴的な要素を解りやすく表現した人気曲。小学校の教科書にも採用されており、公演後も教材として有用。犬は「ビョウビョウ」、猿「キヤーキヤー」、鳶「ひーよろよろよろよろ」などという鳴き真似と所作、ラストの話のどんでん返しなど聞きどころや見どころが明瞭である。見た目の面白さと筋の可笑しさの二つのバランスが取れた狂言を代表する芸術的秀作である。子どもの耳にも心地よい擬音と真似のしやすい狂言の発声は、子供の記憶に残り、更なる興味が広がる事を確信している。

■能「羽衣(はごろも)」

《あらすじ》

駿河美保の漁師・白龍(はくりょう)が漁に出ようと浜辺にやってくる。いい香りが立ちこめてくるので、白龍があたりを見回すと、浜の松に美しい衣が掛っている。白龍はそれを家の宝にと持ち帰ろうとするが、そこへ一人の女性が現れて、「それは天人である私の羽衣なので返して欲しい」と頼む。一度はことわる白龍だったが、天人が「羽衣がなくては天に帰れない」とあまりに悲しむので、羽衣を返すかわりに世に名高い天人の舞楽を見せて欲しいと頼むと天人はよろこんで承知し、羽衣を身にまとして舞楽をかなで舞いはじめる。天人は海辺の風にたなびきながら、宝ものを降らせつつ、だんだんと富士の高嶺へ舞い上がり、霞の中にまぎれはるか天空へと帰っていくのだった。

《みどころ》

・国語の教科書にも掲載されている「天女の羽衣」の有名な物語をモチーフにしており、解りやすい筋立てと清らかな趣で、芸術性に優れた曲。能が持つ世界観が「直感的」に伝わる演目であり、「初めて観る能」としても相応しい演目である。鑑賞者である子どもたちが興味を持って鑑賞できる曲であると考え。

- ・中学校の音楽の教科書に取り上げられている演目でもあり、本物の能楽囃子を臨場感をもって触れることができるのは、音楽科としても何より有意義な体験となり、新しい興味と発想をもたらすだろう。能における囃子の持つ役割の大切さと伝統音楽の魅力を伝えられる演目でもあると考える。
- ・「月の世界から降りてきた天人」に扮した美しいシテ(主人公)の姿とその舞は、舞台をみた子どもたちの想像の世界を広げ、成人になっても、強い印象を残し、温かな感動が心を満たす喜びを体験してくれるものと確信している。
- ・「人を疑う事を知らない」天人の有様は、子供の心に「清くある事」「美しくある事」の大切さを体現し、道徳的、情操的にも高い教育的効果をもたらすと考える。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

■ 事前ワークショップ「能を体験しよう！」において

◇能の謡(うたい)と構え(姿勢)、運び(摺り足)を体験(全員)。実技指導を行う。

◇鑑賞演目「羽衣」の一部を能楽師とともに演じてみる。

※鑑賞演目「羽衣」より、天人(主役・シテ)の立居・動作から能独特の「美しい」動作をテーマに体験。実技指導を行い、能楽師と共演。

- ・天人の「羽衣(長絹)」を着て、「美しく」立ち、「美しく」動いてみよう。(代表生徒)
→ジュニアサイズの羽衣(長絹)を仕立て、使用。
- ・天人のように「美しく」泣く動作をしてみよう。(生徒全員)
- ・天人のように「美しく」宝を降らす動作をしてみよう。(生徒全員)

◇能面を付けてみる。

※能の特徴の一つである能面を付けた時の視野の狭さを体験(全員)。

※実際に本物の能面をかけて摺り足を体験してもらう(代表生徒)。

◇能の楽器(笛、小鼓、大鼓、太鼓)を体験してもらう(代表生徒)。

■ 公演当日でのワークショップ「狂言を体験しよう！」において

◇狂言独自の発声を体験。「犬や猿や鳶など動物の鳴真似」(鑑賞演目「柿山伏」より)や「泣き」「笑い」「擬音」など(全員)。

◇狂言の構え(姿勢)と運び(摺り足)としぐさを体験(代表生徒)。

公演に関心をもってもらうよう、事前ワークショップ及び当日配布する資料はとても重要なツールと考える。

ワークショップのテキストや当日プログラムではマンガ、イラストを使用して表現。

ワークショップのテキスト及び本公演のプログラムには「にゃんあみ」なるキャラクターが登場。ナビゲーター役として、子供たちを能の世界にいざなう。子供たちに興味を持ってもらうような構成とした。工夫凝らし、理解を深めてもらうよう最善を尽くしたい。子どもたちの心に少しでも印象が残るように努力したい。

児童生徒とのふれあい

始終、実演者からの挨拶を心がけたい。日本は礼節を重んじる国である事、その心地よさまでも肌で感じてほしい。また、公演内容の構成として「アフタートーク及び質問コーナー」の時間を設けた。子供たちからの質問に答える事はもちろん、公演について等、実演者から子供たちに質問をする事も考えている。子供たちのそれぞれの心の中に何かしらの印象や思い出が残る機会となるよう、それが子供たちの将来に何かしらもたらす事が叶うよう、働きかけ、真摯に向かい合いたいと考えている。